第 159 回日本医師会定例代議員会 印象記

常任理事　玉城　研太朗

第 159 回日本医師会臨時代議員会 次第

日時：令和 7 年 6 月 22 日（日）午前 9 時 30 分
場所：日本医師会館
東京都文京区本駒込 2 丁目 28 番 16 号

1. 開　会
1. 会長挨拶
1. 報　告
令和 6 年度日本医師会事業報告の件
1. 議　事
第 1 号議案 令和 6 年度日本医師会決算の件
第 2 号議案 令和 8 年度日本医師会会費賦課徴収の件
1. 閉　会

このたび、6 月 22 日（日）日本医師会館において第 159 回日本医師会代議員会に出席させていただきました。代議員会では日本の医療を取り巻くさまざまな課題が議論されており、わたくしもいくつかの点について質問をさせていただきました。

まずひとつ目のテーマは「医師の働き方改革」についてです。全国一律の改革方針が、特に地方の医療提供体制に大きな負担を与えている現状を踏まえ、働き方改革も地域や現場の実情に応じて“個別化”してはどうかという提案をいたしました。わたくし自身、もし勤務時間が 9 時から 5 時で終わってしまったら、何とも物足りなさを感じてしまうタイプでして……（笑）。もちろん無理は禁物ですが、医師が「働けるときに働ける体制」を柔軟に認めることも選択肢に入れてほしいと考えています。そのためには、医師の健康を守る産業保健体制の強化は不可欠であることも併せて申し上げました。

この点について、日本医師会の城守常任理事より「若手医師の中には、もっと研修したい、症例を経験したいという声が確かに多く、一律の基準では限界がある。面接指導などの体制が整えば過労のリスクは防げるとの考えから、制度の柔軟な見直しを国にも働きかけていきたい」とのご回答をいただきました。現場の声に耳を傾けていただいていることに、心強さを感じました。

次に取り上げたのは、「カスタマーハラスメント（カスハラ）に対する組織的対応」についてです。医療現場においても、理不尽な要求や対応困難なケースが後を絶たず、全国規模での対応システムの構築が急務であると強く感じています。沖縄県医師会ではこの問題にいち早く着手しており、今回はその現状を共有するとともに、日本医師会としての見解を伺いました。盟友である藤原慶正常任理事もこの課題に強く関心を持ち、ご苦労されているとのことで、今後は藤原理事と連携し、全国に発信できるような「日本版カスハラ対策モデル」を構築できたらと願っています。

そして最後に、日本医師会松本会長あいさつに対する質問状として「医療には夢がある」と、わたくしの思いをエールとしてお伝えさせていただきました。課題は山積していることは承知の上ですが、それでもなお、誰もがワクワクするような未来を描けるのが医療の魅力だと思っています。日本医師会においても、そんな夢あるプロジェクトがどんどん生まれてくることを期待しております。と、会長あいさつに是非とも前向きな発信を盛り込んで頂きたい、と要望させて頂きました。

帰沖して翌日には、松本会長からお電話をいただき、お互いエールを送り合いました。わたくし自身まだまだ若輩者で恐縮ではありましたが、お電話でもしっかりとわたくしの思いを伝えさせて頂きました。

沖縄県医師会では「ワクワクのプロジェクト」が本当に“わんさか”あります！日本の医療の未来を切り拓く、希望に満ちた沖縄県医師会の挑戦、ますます面白くなりそうです！

※報告書の詳細につきましてはホームページをご参照下さい。
https://www.okinawa.med.or.jp/medical/kaihou/houkoku/202303-2/